ふしぎなフーセンガム

分かり合う大切さ

4年　R・Yさん

表紙のリスと目が合った。口をふくらませながらこっちを見ている。かわいいと思った。けれど、読み始めてみて一番びっくりしたのは、山田みこの行動だ。

山田みこは「やまんばみこ」と呼ばれるくらいらんぼうでみんなからこわがられ、主人公のじゅんがとった四つ葉のクローバーを勝手にとったり、おんぶをしながら走りだしてしまう。じゅんも山田みこのことを「ぼくと正反対」と言っているし、ぼくも強くて男の子っぽいと思った。

でも、リスからもらったフーセンガムで女の子になったじゅんが山田みこと遊ぶと、山田みこは教えることが上手で、物知りで、思ったことがすぐに出来るので、今までの山田みことは違うように感じた。今までは、男の子っぽいなと思っていたけれど、それは知らなかっただけだと気付いた。じゅんも山田みこは自分の気持ちに正直なんだと分かって、ぼくはぼくなんだと気付けた時、晴れ晴れした気持ちになったと思う。

ママは「男の子は公園で走り回ってほしい。」と思っているかもしれないけど、ぼくは草むらで虫をとるほうがすき。

ぼくは野球はしないけどピアノがすごくうまいんだ。

それがぼくなんだ。

ぼくもこの本を読んで、これがぼくなんだと思った。男は男らしく、女は女らしくしなければいけないというわけではなく、自分は自分でいいと思えることが大切だと思った。自分だけの個性と性格、気持ちがあり、それは他人には生み出せない、自分だけが生み出せる大事なものだ。だからこそ、大切なことは、自分の気持ちに正直になり、相手の個性や性格、気持ちを分かろうと努力することだと思う。もし、相手のことをもっと知りたいと思ったら、自分から話しかけて自分のことを教えたり、またその相手に色々なことを聞いたりして、分かり合えるといいと思う。